

ルールの改正点・修正点

1 6人制改正点・修正点

本競技規則は、2024年11月15日から17日にポルトガルのポルトで開催された第39回FIVB総会においてルール改正が承認され、2025年1月にFIVBより「ルールブック2025-2028」としてホームページに公表されたものである。それをもとに2025年度版ルールブックの改・修正点を以下のようにまとめた。

ケースブックについても2024年に改訂版が公表され、削除や追加されたケースなども多く、この機会に全体的な見直しを行った。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』についてもケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な改・修正点である。

●改正点

7.4 ポジション

サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内に位置していなければならない。レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置していなければならない。

サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。

7.4.4 サービスヒット後、両チームの選手は自チームのコートとフリーゾーンのどの位置にいても移動してもよい。

10.1 ネットを通過するボール

10.1.2 チームが1回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外からネット垂直面を越えて相手フリーゾーンに行った場合、チームの許容ヒット内で以下の条件のもとにプレーしてボールを取り戻すことができる。（第5図b）

10.1.2.1 規則11.2.2.1の場合を除き、選手が相手コートに触れない。

10.1.2.2 ボールを取り戻すとき、ボールの全体または一部は再びコートの同じ側の許容空間外からネット垂直面を越えなければならない。そうでない場合はボールアウトとなる。
相手チームはこの動作を妨げてはならない。（第5図b）

10.1.2.3 チームが2回目または3回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外を通過して相手フリーゾーンに行った場合は、ボールを取り戻すことはできない。ボールがネット垂直面を越えた時点でアウトとなる。

11.4 ネット近くの選手の反則

11.4.1 相手チームのアタックヒットの前または同時に、選手が相手空間でボールもしくは相手選手に触れたとき。（規則11.1.1，第11図㉑）

12.5 スクリーン

12.5.3 サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。

意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。

23.3.2 試合中、ファーストレフェリーは次の権限を持つ。

23.3.2.3 次のことを判定する。

i) サービスボールや2回目または3回目にヒットされたボールがファーストレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。（第11図㉒）

24.3.2 試合中、セカンドレフェリーは次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示

す。

24.3.2.8 サービスボールや2回目または3回目にヒットされたボールがセカンドレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。(第11図⑯)

29.2.1 ラインジャッジはフラッグ(40×40 cm)を使用して次のことをシグナルで示す：

29.2.1.3 ボールがアンテナに触れたとき、またはサービスボールおよびチームの2回目または3回目にヒットされたボールが許容空間外側のネットの垂直面を通過したとき。(規則8.4.3, 8.4.4, 第5図a, 第12図④)

● 修正点

1. リザーブレフェリーの責務についての条文を修正した。
 - 26.2.5 セカンドレフェリーを補佐し、プレーの妨げとなるものがフリーゾーンにないように注意する。
 - 26.2.6 セカンドレフェリーを補佐し、退場や失格となったチームメンバーがチーム控室に行くように指示をする。
 - 26.2.9 ファーストレフェリーを補佐し、モッパの任務を管理する。
2. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。
3. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

2 9人制改正点・修正点

今年度についても、これまでのラリーの継続を踏襲し、プレーをする側も、観る側も理解しやすいよう競技規則を見直した。具体的には、ルールブックの内容がより理解しやすくなるよう章立ての見直しを行った。また、9人制と6人制の競技規則について、その違いを簡易的にまとめて表にした。その他、日頃から公益財団法人日本バレーボール協会(JVA)に寄せられた9人制競技規則に対する意見等も参考に、条文の表現を平易にしてより分かりやすい競技規則になるよう心掛けて編集にあたった。

以下が本年度の主な修正点である。

● 修正点

1. 第5章 試合の中断と遅延行為
この章を新たに追加し、今までの「第3章 試合の準備と進行」と「第4章 プレーの定義と反則」に含まれていた以下の条項を記載した。
 - 【第3章 試合の準備と進行】
 - ・試合の中断と再開
 - ・セット間の中断
 - ・タイムアウト
 - ・選手交代
 - ・試合中断の不当な要求と処置
 - ・不法な選手がプレーしたときの処置
 - ・セットおよび試合の勝者
 - ・特殊な事情による試合の中断と処置
 - ・セットまたは試合の没収
 - 【第4章 プレーの定義と反則】
 - ・試合の遅延
2. 第6章 不法な行為と罰則
この章を新たに追加し、今までの「第4章 プレーの定義と反則」に含まれていた以下の条

項を記載した。

・不法な行為

3. 第1条 競技エリア (第1図)

第1項 競技エリア

➡ 競技エリアに変更。

第3項 フリーゾーン

フリーゾーンは最小限サイドラインから5m, エンドラインから6.5mの広さがなければならない。

➡ 最小限を削除。

4. 第5条 競技参加者の権利と義務

第1項 基本的な権利と義務

3 競技参加者は試合中、審判員の判定に異議を申し出ることにはできない。競技規則の適用解釈については、ゲームキャプテンのみが主審に対して質問をすることができる。

4 コート内の選手を除く競技参加者は試合中、

(2) チームベンチやウォームアップエリアからコート内の選手に対して激励したり、話しかけたりすることができる。

➡ 文言の変更。

5. 第7条 試合の開始とサービス権の移行

第2項 第2 (第3) セットの開始

第2 (第3) セットは、前セットの最後にサービスを行った相手チームの次のサーバーで開始する。

➡ 文言の変更。

6. 第17条 試合の中断と再開

第2項 試合の再開

(1) セット間の中断の場合は、前セットの最後にサービスを行った相手チームの次のサーバーで再開する。

➡ セット間の中断の場合を追加。

7. 第18条 セット間の中断

セット間の中断の時間は3分間とする。この間、選手はコートから離れチームベンチ近くにいなければならない。ただし、他の試合の妨げとならない限り、自チーム側のフリーゾーンでボールを使用してウォームアップをすることができる。

➡ 文言の削除。

8. 第19条 タイムアウト

3 タイムアウトの間、プレー中の選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。ただし、他の試合の妨げとならない限りエンドライン後方のフリーゾーンでボールを使用しないでウォームアップをすることができる。

➡ 文言の削除。

9. 付録(2) ヴィンテージ8's競技規則

➡ 新たに付録を追加。

10. 付録(3) 公式記録記入法

1 試合前

⑥ 正規に登録された選手の番号と氏名。また、チームキャプテンの番号を○で囲む(選手は番号順または構成メンバー表順に記入する)。

➡ 文言の変更。

11. 付録(5) ケースブック

第5章 試合の中断と遅延行為

この章を新たに追加し、今までの「第3章 試合の準備と進行」と「第4章 プレーの

定義と反則」に含まれていた以下の条項を記載した。

【第3章 試合の準備と進行】

- ・セット間の中断
- ・タイムアウト
- ・選手交代
- ・試合中断の不当な要求と処置
- ・不法な選手がプレーしたときの処置
- ・特殊な事情による試合の中断と処置
- ・セットまたは試合の没収

【第4章 プレーの定義と反則】

- ・試合の遅延

第6章 不法な行為と罰則

この章を新たに追加し、今までの「第4章 プレーの定義と反則」に含まれていた以下の条項を記載した。

- ・不法な行為

その他にケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

12. 付録(6) 9・6人制競技規則対照表

➡ 新たに付録を追加。

3 ビーチバレー改正点・修正点

本競技規則は、2024年11月15日から17日にポルトガルのポルトで開催された第39回FIVB総会においてルール改正が承認され、FIVBより「ルールブック2025-2028」としてホームページに公表されたものである。それをもとに、2025年度版ルールブックの改・修正点を以下のようにまとめた。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』のケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な改・修正点である。

● 改正点

8.4 ボール”アウト”

- 8.4.4 サービスおよびチームの2回目または3回目のヒットが、ボールの全体またはその一部でも許容空間外側のネットの垂直面を通過したとき。ただし、規則 10.1.2 の場合を除く。(規則 2.3, 10.1.2.2, 第3図 a, 第8図⑮, 第9図④)

9.1 チームのヒット

9.1.2 同時の接触

- 9.1.2.3 相対するチームの2人の選手がネット上で同時にヒットしたボールへの接触が長引いた場合、その接触が相手コート上で完了しても、プレーは続行される。(規則 9.1.2.2)

10.1 ネットを通過するボール

- 10.1.2 チームが1回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外からネット垂直面を越えて相手フリーゾーンに行った場合、チームの許容ヒット内で以下の条件のもとにプレーしてボールを取り戻すことができる。(規則 9.1, 第3図 b)

- 10.1.2.1 ボールを取り戻すとき、ボールの全体または一部はコートと同じ側の許容空間外からネット垂直面を越えなければならない。そうでない場合、ボールアウトとなる。

相手チームはこの動作を妨げてはならない。(規則 11.4.3, 第3図 b)

- 10.1.2.2 チームが2回目または3回目にヒットしたボールの全体または一部が許容空間の外を通って相手フリーゾーンに行った場合は、取り戻すことはできない。ボールがネット垂直面を

越えた時点でアウトとなる。(第3図b)

10.1.3 ボールがネット下の空間で相手コートに向かっているとき、ボール全体がネット垂直面を越える瞬間までプレーすることができる。(第3図b)

11.1 ネットの向こう側に手を伸ばすこと

11.1.2 アタックヒット中、選手の最初の接触が自チームのフリープレー空間で行われ、ボールをつかんだり投げたりしなければ、その手がネットを越えて相手空間に入ってもよい。

12.5 スクリーン

12.5.3 サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。(規則12.4, 12.5.2, 第4図, 第8図⑫)

意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはキャプテンを通じてチームに注意することができる。

15.5 不当な要求

15.5.4 試合での1回目の不当な要求は、試合に影響を与えず試合の遅延にならなければ拒否される。罰則の適用を受けることはないが、スコアシートには記録される。(規則16.1.2, 26.2.2.4, 26.2.2.6)

22.3.2 試合中、ファーストレフェリーは次の権限を持つ。

22.3.2.3 次のことを判定する。

e) サービスボールや2回目または3回目にヒットされたボールがファーストレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。

23.3.2 試合中、セカンドレフェリーは次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示す。

23.3.2.7 サービスボールや2回目または3回目にヒットされたボールがセカンドレフェリー側のアンテナ上方や外側を通過したとき。

28.2.1 ラインジャッジはフラッグ(40×40cm)を使用して次のことをシグナルで示す：

28.2.1.3 ボールがアンテナに触れたとき、またはサービスボールおよびチームの2回目または3回目にヒットされたボールが許容空間外側のネットの垂直面を通過したとき。

● 修正点

1. リザーブレフェリーの責務についての条文を修正した。

25.2.6 サンドレベラーの動きを指示するファーストレフェリーを補佐する。(規則22.2.2)

2. スコアシート記入法を多くの方に理解していただけるように修正し、スコアラーの責務について記載を追加した。

3. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。

4. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

4 ソフトバレー改正点・修正点

競技規則制定から38年を迎え、競技規則は、6・9人制バレーボールの長所を生かしながらソフトバレーボールの本質である「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」に沿い、適合したものとなるよう心掛け編集を行った。

本年度は、競技場の表記を競技エリアに、選手またはボールがフリーゾーンを越えた場合の基準を完全に越えた場合に統一した。

以下が本年度の主な修正点である。

● 修正点

I. 条文の修正

第1章 施設と用具

1 競技エリア (第1図)

1.1 競技エリア

1.1.1 競技エリアには、コートおよびフリーゾーンが含まれる。

1.1.2 競技エリアの表面から最低限7mの高さとフリーゾーンにはネット、支柱、審判台を除き、一切の障害物があってはならない。

1.1.3 競技エリアは、平坦かつ水平であり、荒れていたり滑りやすい表面であってはならない。

〈第1図 競技エリアの規格〉

⇒競技場の表記を競技エリアに修正した。

第5章 プレー上の動作と反則

19 アタックヒット

19.5 「ファミリーの部」では、ボール全体がネット上端より高い位置にあるとき、バックに位置した大人の選手がアタックヒットを完了したときは反則となる。

⇒サービスされたボール全体の表記に誤りがあったため、「サービスされた」の表記を削除した。

22 プレー上の反則

22.1 ペネトレーションフォルト

22.1.3 センターラインを完全に越えて、相手コートに接触したとき。ただし、片方の足（両足）または片方の手（両手）の一部がセンターラインに接触しているか、その真上に残っていれば許される。しかし、肘、膝、頭などの身体部分が相手コートに接触した場合は反則となる。（第8図）

⇒本文表記に誤りがあり、「残っていなければ許される。」の表記を「残っていれば許される。」に修正した。

22.12.5 ボールが完全にフリーゾーンを越えたとき。

⇒「フリーゾーンを超えたとき。」を「完全にフリーゾーンを越えたとき。」とし、22.1.4の選手の場合とボールの場合の基準を統一する修正をした。

22.12.6 他の選手や競技エリア内の物体で身体を支えたり、これを利用してボールをプレーしたとき。

⇒競技場の表記を競技エリアに修正した。

第7章 審判員の責務および公式ハンドシグナル

26 主 審

26.1 権 限

26.1.4 主審は、試合開始前あるいは試合中に、競技エリアやその状況が競技に適しているかどうかを決定する責任をもつ。

⇒競技場の表記を競技エリアに修正した。

26.2 責 務

26.2.1 主審は、試合開始前

26.2.1.1 競技エリア、ボールや他の用具の状態を点検する。

⇒競技場の表記を競技エリアに修正した。

26.2.2.3 特殊な事情が発生したときは、吹笛しラリーを中断する。

⇒反則の場合と特殊な事情による中断の場合の吹笛を区分するため、26.2.2.2の(d)を削除し、新たな条項を追加した。

27 副 審

27.2 責 務

27.2.2 次の反則があったときは、吹笛し続いて公式ハンドシグナルを用いて、その種類を示す。ただし、主審の吹笛に続いて他の反則の吹笛はしない。

⇒副審が吹笛し判定する反則の手続きを解りやすい文章に修正した。

27.2.3 特殊な事情が発生したときは、吹笛シラリーを中断する。

⇒反則の場合と特殊な事情による中断の場合の吹笛を区分するため、27.2.2.6を削除し、新たな条項を追加した。

31 主審と副審の公式ハンドシグナル（第10図）

第10図 主審と副審の公式ハンドシグナル

●ペネトレーションフォルト ⑮

規則17.4.5, 17.4.6, 22.1, 26.2.2.2 (b) , 27.2.2.3

⇒規則条項の修正をした。

II. その他

規則，公式記録記入法，プロトコールおよびケースブックをより読み易く理解しやすいように表記の見直し，字句を修正した。